Hiroshima Journal of International Studies Volume 26 2020

# 成都方言における“得”の統語的機能について

藤原　優美

# Investigation of the Syntactic Function of [te$^{21}$] in the Chengdu Dialect

Yubi FUJIWARA

In Chinese, a morpheme has various syntactic functions and can represent various meanings. [te$^{21}$] in the Chengdu dialect is one of them. [te$^{21}$] can be used as an auxiliary verb before a verb, and as a postpositional particle after a verb. It also can be used as a modal particle at the end of a sentence, and has a syntactic function as a verb.

In this paper, I examine [te$^{21}$] of the Chengdu dialect to clarify its syntactic function. Also, its meaning and grammatical usage are examined in contrast with Putonghua (Standard Mandarin).

Ⅰ．はじめに
　Ⅰ.1　問題提起
　Ⅰ.2　先行研究及び本研究の理論枠組み
Ⅱ．“得”の統語的機能について
　Ⅱ.1　動詞としての“得”
　Ⅱ.2　助動詞としての“得”
　　Ⅱ.2.1　動詞の前に使う助動詞の“得”
　　Ⅱ.2.2　動詞の後ろに使う後助動詞の“得”
　Ⅱ.3　構造助詞としての“得”
　Ⅱ.4　語気詞としての“得”
Ⅲ．おわりに

## Ⅰ．はじめに

### Ⅰ．1　問題提起

中国語においては、１つの形態素が多様な統語的機能を持ち、さまざまな意味を表すことができる。その１例として、“得”が挙げられる。《现代汉语词典（第６版）》(2012）によれば、普通話（共通語）における“得”は、動詞・助動詞・助詞などとして使うことができる。しかし、１つの形態素が複数の意味・用法を持つのは普通話（共通語）の“得”だけでなく、成都方言における“得”に関しても同じことが言える。《四川方言词典》[1]（2014）によれば、“得”は以下の意味・用法を持っている。

1　助詞：動詞の後ろに用いて、“能耐”“禁受”、つまり、「ある能力や特徴のため、～できる」の意味を表す。

2　動詞[2]：動詞の前に用いて、“会”“能”、つまり「かもしれない」や「できる」の意味を表す。

3　語気詞：

①　否定文の文末に用いて、なだらかな陳述語気[3]を表す。

②　副詞“还”、“才”、“简直”、“实在”などと共に用いて、強調、弁解の語気を表す。

4　動詞：「（人・事物や自分の努力を）頼る」の意味を表す。

以上のように、成都方言を含めた四川方言における“得”はさまざまな統語的機能を持つことがわかる。しかし、成都方言では、動詞の後ろに用いる“得”について、例えば“这个，我做得，你做不得（「これ / このこと、私はやって良いが、あなたはやってはいけない」）”の文においては、上記１「ある能力や特徴のため、～できる」という意味ではなく、「許可されて～できる」の意味になる。つまり、この文にある“得”は許可を表す“可以”と同じ用法である。

また、動詞の前に用いる“得”について、上記では“会”、“能”の意味を表すとあるが、“会”と“能”の意味・用法はそれぞれ１つではなく多数あるため、成都方言の“得”はそれら全ての意味・用法をカバーしているのか、それともその中のどれかにしか対応していないのか、より細かく分析する必要がある。

さらに、成都方言の“得”は普通話（共通語）の“得”のように、構造助詞[4]として使うこともあり、形容詞や動詞の直後について、形容詞、副詞やフレー

キーワード：得、成都方言、動詞、助動詞、助詞

ズを伴って補語を形成し、形容詞や動詞が表す意味の補足説明を行う。

本研究では、成都方言における“得”の統語的機能を明らかにしたい。そこで、“得”を品詞別に分けて、その意味・文法的用法について細かく考察し、分析をする。

### Ⅰ．2　先行研究及び本研究の理論枠組み

成都方言における“得”の統語的機能について、代表的な先行研究は周家筠（1983）、張一舟・張清源・鄧英樹（2001）、熊進（2005）などが挙げられる。

周（1983）は、成都方言における“得”を、動詞後の“得”、動詞前の“得”、文末の“得”の3グループに分け、その意味について分析した。そこで、動詞後の“得”は構造助詞で、「ある能力や特徴のため、～できる」の意味と許可の意味を表す。動詞前の“得”について、助動詞として用いられる場合は蓋然性を表し、語気副詞として用いられる場合は強調の語気を表す。文末の“得”は語気詞で、強調または陳述の語気を表すと指摘している。周（1983）は“得”の統語的機能に関する先行研究の中で、かなり早い段階での実践であるが、動詞としての“得”や普通話（共通語）と同じ使い方の構造助詞としての“得”は分析対象から除外されている。

張・張・鄧（2001）は、“得”が助動詞または構造助詞として用いられる際の構文構造について分析した。そこで以下の結果が得られた。“得V/不得V”は、客観的条件の可能性、または主観的意志を表す。“V得/V不得”は、①客観的条件の許容または必要性を表す；②人や事物の能力の強弱を表す；③「すべき」や「しなければならない」の意味を表す。しかし、張・張・鄧（2001）においては、動詞としての“得”や語気詞としての“得”は分析対象から除外されている。

熊（2005）では、四川方言における“得”について、“得V”と“V得”の意味機能を中心に研究を進めた。その結果、“得V/不得V”は事態の成立に対する話し手の推測、判断を表すのに対して、“V得/V不得”は現実における義務、許可、能力などの意味を表すことを示した。また、Sweetser（1990）理論の「根源的」意味と「認識的」意味にしたがい、認知視点から両者は補う関係にあり、助動詞の意味体系状の整合性を保っており、イメージスキーマを通じて、両者を統合的理解することができると指摘した。

以上の先行研究を通してある程度、成都方言にける“得”、特に動詞の後や前に使う際の統語的機能を知ることができる。しかし、動詞としての“得”や普通話（共通語）と同じ使い方の構造助詞としての“得”、また語気詞としての“得”が分析対象から除外されていることがあるため、その全体像が捉えにくい。本研究では、先行研究で除外されたものも含め、“得”の統語機能の全体像を捉えるよう、動詞、助動詞、構造助詞、語気詞の順で分析していく。

また、先行研究ですでに議論された“得V”と“V得”の意味・用法について、さらに細かく考察したい。例えば、“会”、“能”の意味として用いる際、“得”はそれらの全ての意味や用法をカバーしているか、それともその中のどれかにしか対応していないか、などである。

一方、先行研究においては、“得”に関する品詞の分類もそれぞれ違いがある。周（1983）では、動詞後ろの“得”は構造助詞とされているのに対して、張・張・鄧（2001）では、“V得”の“得”はまだ語彙的意味があるため、「構造助詞」と考えるのは不適切で、「動詞」もしくは「後助動詞」の方が妥当であると指摘している。熊（2005）では、特に品詞分類を論じず、用法のみについて考察をした。他にも、動詞の後ろに使う“得”についてさまざまな観点がある。呂叔湘（1980）では、“V得”の“得”は構造助詞だと考えているが、朱德熙（1982）では、その“得”は動詞だと指摘している。例えば、“说得”は“说得$_1$得$_2$”の簡略形であり、“得$_1$”は助詞であるが、“得$_2$”は動詞である。本研究では、動詞後ろの“得”について、以下のように考えられている。

“跑得快（「走るのが速い」）、睡得晚（「寝るのが遅い」）”や“做得完（「やり終えられる」）、回得来（「帰ってこられる」）”など、「V＋得＋他の要素」の場合、前者の“得”は、動詞のあとについて様態補語[5]を導く役割を果たしているが、後者は動詞と結果補語[6]や方向補語[7]の間に使って、主観的・客観的条件から補語が表す結果が実現可能かどうかを表す。いずれも文法的意味を表し、実質的な語彙的意味を持っていない。また、単独で用いることもできない。したがって、先行研究（呂（1980）、周（1983）など）でも指摘したように、「V＋得＋他の要素」の“得”は構造助詞である。

“吃得（「たくさん食べられる」「食べてもいい」など）”、“读得（「たくさん読める」「読んでもいい」

など）”など、「V＋得」の場合、“得”は前の動詞が表す意味を補足し、主に可能性や許可などの意味を表す。置く場所が違うが、動詞の前に使う助動詞の用法[8]と同じである。また、“V 得”の否定形は“V 不得”であり、副詞の“不”は“得”の部分を否定するため、構造助詞の場合と違う。構造助詞は実質的な語彙意味を持っていなく、単独で用いられないので、前に副詞の“不”を使うことができない。「V＋得＋他の要素」の場合、“跑得快（「走るのが速い」）、睡得晚（「寝るのが遅い」）”“做得完（「やり終えられる」）、回得来（「帰ってこられる」）”の否定形は“跑得不快（「走るのが速くない」）、睡得不晚（「寝るのが遅くない」）”、“做不完（「やり終えられない」）、回不来（「帰ってこられない」）”であり、否定の部分は後ろの補語の部分になっている。そのため、「V＋得」の“得”は構造助詞ではないことがかわる。一方、動詞の前に使う助動詞の場合、副詞の“不”は動詞の前ではなく、助動詞の前に用いられ、それを否定する。置く場所が違うが、「V＋得」否定形の否定部分及び方法は助動詞と同じである。以上のように、「V＋得」の“得”は助動詞と見なせる。なお、一般的に動詞の前に置く助動詞と違って、動詞の後ろにあるので、「後助動詞」と言えよう。

したがって、本研究では、動詞の後ろにつく“得”について、「V＋得＋他の要素」の場合は構造助詞と見なし、「V＋得」の場合は後助動詞と見なす。

## Ⅱ　“得”の統語的機能について

### Ⅱ．1 動詞としての“得”

中国語の動詞は、《现代汉语》(1997) などによれば、動作・行為や心理活動、存在・消滅、変化などを表す。主な特徴としては、①述詞として使い、目的語をとることができる動詞が多い；②前に否定を表す副詞の“不”を加えることができる、心理活動を表す動詞の前に副詞の“很”を加えることもできる；③ほとんどは動態助詞“着”“了”“过”を付加することができる；④一部は重畳することができる。以下、(2-1)(2-2) の“得”は上述の定義や特徴に当てはまるため、動詞であることがわかる。

(2-1) 你　得　了　好多　钱？
あなた　得る　～た　どれぐらい　お金
あなたはお金をどれぐらいもらった？

(2-2) 全　得　那个　老师　搭力。
全て　頼る　その / あの　先生　手伝う
全てはその / あの先生が手伝ってくださったおかげだ。

(2-1)「あなたはお金をどれぐらいもらった？」でわかるように、“得”は「得る」の意味であり、もらうという動作を表している。これについて、普通話（共通語）の動詞の“得”にも同じ意味・用法がある。

(2-2) は兼語文であり、“搭力”（「手伝う」）という動詞が文の後ろにあるが、それは“老师”（「先生」）が行った動作である。前の“得”の主語は省略されており、その目的語は兼語の“老师”（「先生」）である。“得”は「頼る、～おかげ」の意味であり、これは普通話（共通語）にはない意味・用法である。

### Ⅱ．2　助動詞としての“得”

《现代汉语》(1997) などでは、中国語の助動詞は補足的な動詞だと述べている。動詞や形容詞の前に使い、可能、意志・願望、必要性などの意味を表す。以下、(2-3) ～ (2-8) の“得”は助動詞に属している。一方、普通話（共通語）と違い、成都方言の“得”は動詞の後ろに置いても、動詞の前に置くときと同じようにその動詞に可能などの意味を添えることができる。その際、後助動詞と見なし、(2-9) ～ (2-15) はその例である。

#### Ⅱ．2．1　動詞の前に使う助動詞の“得”

(2-3) 太阳大，　被套　才　得　干。
日差しが強い　布団カバー　副詞　[te21]　干す
日差しが強ければ、布団カバーが干せる。

(2-4)　还　没　弄好，　现在　不　得　去。
まだ～　なかった　やり終わる　現在　～ない　[te21]　行く
まだやり終わっていないので、今は行かない。

(2-5)　还　在　做　啥子？　今天　得　迟到　哦！
まだ　～ている　する　何　今日　[te21]　遅刻する　語気詞
まだ何をしているの？今日は遅刻するよ！

(2-6) 不　　得　　下雨。
～ない　[te$^{21}$]　雨が降る
雨が降らないだろう。

(2-7) 好吃　　我　才　　得　　吃。
美味しい　私　副詞　[te$^{21}$]　食べる
美味しければ、食べる。

(2-8) 不　　认错，　不　　得　　理　　你。
～ない　謝る　～ない　[te$^{21}$]　相手にする　あなた
謝らないと、承知しないよ。

(2-3)(2-4) では、客観的な条件などを根拠に、“得”はその出来事の可能性を示している。例えば、(2-3) は「日差しが強い」という条件に満たしてこそ、布団カバーを干すことができる。(2-4) の場合、「（仕事などが）やり終わっていない」という前提があるので、行くことができないのを表している。ここでの“得”は普通話（共通語）の「客観的な条件のもとで～できる」を表す“能”と同じ意味･用法である。

(2-5)(2-6) でも、“得”は可能性を表しているが、客観的な条件などがあってもなくても、主に話者の推測でその可能性を判断する。これは普通話（共通語）の可能性を表す“会”と似ている。

(2-7)(2-8) では、“得”はそれぞれ「食べる」可能性と「相手にしない」可能性を示しているが、可能性より話者の主観的な意志・願望、つまり「食べたい」や「相手にしたくない」気持ちを重点に表している。ここでは、“得”の意味・用法は普通話（共通語）の可能性を表す“会”より自らの意志・願望を表す“愿意”に近い。

### Ⅱ．２．２　動詞の後ろに使う後助動詞の“得”

(2-9) 今天　天气　　好，　出去　　　　耍　　得。
今日　天気　良い　出かけていく　遊ぶ　[te$^{21}$]
今日は天気がいいから、出かけて遊ぶことができる。

(2-10) 这个　苹果　烂　　了，吃　　不　　得。
この リンゴ 壊れる ～た 食べる ～ない [te$^{21}$]
このリンゴは腐ったから、食べられない。

(2-11) 这些事情　　安排　　得。
これらのこと　手配する　[te$^{21}$]
これらのことを手配しても良い。

(2-12) 考试　　手机　　用　　不　　得。
試験　　携帯電話　使う　～ない　[te$^{21}$]
試験中、携帯電話を使ってはいけない。

(2-13) 他　　好　　吃　　得。
彼　　とても　　食べる　　[te$^{21}$]
彼はたくさん食べられる。

(2-14) 这个　苕粉　　煮　不　得，一哈儿　就　烂　了。
この サツマイモ板春雨 煮る ～ない [te$^{21}$] しばらく 副詞 崩れる ～た
このサツマイモ板春雨は長い時間煮ることができない。すぐに崩れてしまう。

(2-15) 到　　时间　了，　　走　　得　了。
なる　時間　～た　出発する　[te$^{21}$]　助詞
時間になるよ、そろそろ出発しなきゃ。

(2-9)(2-10) では、客観的条件のもとで、何かができる / できないを示している。例えば、(2-9) は「今日は天気がいい」という客観的条件があるため、出かけて遊ぶことができる。(2-10) の場合、「リンゴが腐った」という前提で、食べることができない。ここでの“得”は普通話（共通語）の「客観的な条件のもとで～できる」を表す“能”“可以”と同じ意味・用法である。

(2-11)(2-12) では、許可されて、何かができる / できないを示している。(2-11) では、文中には直接に「どこ」「どなた」が許可したかについては書かれていないが、文脈から「手配していい」が許可されたことだと推測できる。(2-12) では、「試験」という前提があるため、携帯電話を使うとカンニング行為と見なされるため、許可されていない行為である。ここでの“得”は普通話（共通語）の「許可されて～できる」を表す“可以”と同じ意味・用法である。

(2-13)(2-14) の“得”は、人やもの、すなわち行為主体の能力が、ある事態を達成できる / できないを示している。(2-13) では、彼は他の人より多く食べる力を持っているため、たくさん食べられる。(2-14) では、サツマイモ板春雨は崩れやすい性質があるので、長い時間煮ることができない。ここでの“得”は、普通話（共通語）の「能力があって～できる」を表

す“能”の意味と近い。

(2-15) は、道理の上からの必要性あるいは実際における必要性を表す。普通話（共通語）の助動詞“应该”と同じである。

### Ⅱ．3　構造助詞としての“得”

中国語の助詞は実詞、フレーズまたは文について文法的意味を表す。構造助詞はその１つであり、主に２つ以上の語及びフレーズの間の文法関係を表すものである。

(2-16) 坐 近点 看 得 清楚，坐 远 了 看 不清楚。
座る 少し近い 見る [te$^{21}$] はっきりする 座る 遠い 変化 見る はっきりしない
近く座ればはっきり見えるが、遠く座るとはっきり見えない。

(2-17) 这个我 买 得 起，那个 买 不 起。
これ 私 買う [te$^{21}$] 方向補語 それ / あれ 買う [te$^{21}$] の否定 方向補語
これは買えるが、それ / あれは買えない。

(2-18) 他 走 得 快，我 走 得 不快。
彼 歩く [te$^{21}$] 速い 私 歩く [te$^{21}$] 速くない
彼は歩くのが速い、私は歩くのが速くない。

(2-16) の“看得清楚”は「動詞“看”＋得＋結果補語“清楚”」、“看不清楚”はその否定形である。(2-17) の“买得起”は「動詞“买”＋得＋方向補語“起”」、“买不起”はその否定形である。(2-16) と (2-17) とも普通話（共通語）と同じように、動詞と結果補語または方向補語の間に“得”を挿入することで、補語の表す結果が実現可能かどうかを表す。

(2-18) の“走得快”は「動詞“走”＋得＋形容詞“快”」の形で、“走得不快”はその否定形である。これも普通話（共通語）と同じように、動詞や形容詞の後ろに“得”を置き、その後の形容詞で状態や性質などを説明する。いわゆる、様態補語の使い方である。

### ２．４　語気詞としての“得”

(2-19) 这个 不好 说 得。
これ よくない 話す [te$^{21}$]
これは話しにくい。

(2-20) 这件事 简直 不好 提 得，算了。
このこと 本当に よくない 言う [te$^{21}$] もういい
このことは本当に言えません。もういいよ。

(2-21) 屋头 在 开会 得。
部屋の中 ～ている 会議をする [te$^{213}$]
部屋の中で、会議をしている。

(2-19) の文末にある“得”は、陳述語気を表しているが、省略しても文の意味は変わらない。(2-20) の“得”は動詞の後ろについて、副詞の“简直”と共に強調の語気を表す。(2-21)“得”は文末について、文中の“在”と共に持続を表す。ただし、この場合の“得”の声調は違う。[te$^{21}$] ではなく、[te$^{213}$] である。声調の相違は統語的機能に何らかの関係を示す可能性があるが、本研究では特に論じず、今後の機会に譲ることとする。

## Ⅲ　おわりに

本研究では、成都方言における“得”の統語的機能について、“得”を品詞別に分けて、その意味・文法的用法について細かく考察し、分析をした。先行研究で分析対象から除外されたもの、例えば、動詞としての“得”や普通話（共通語）と同じ使い方の構造助詞としての“得”、また語気詞としての“得”も分析対象とし、動詞、助動詞、構造助詞、語気詞の順で分析したため、“得”の統語的機能の全体像が明らかになった。また、“得”を各品詞に分類する際、特に動詞の後ろに使う“得”について、まずは理論的根拠を示し、それから構造助詞･後助動詞に分けて考察した。さらに、“会”“能”の意味として用いられる“得”について、それぞれ“会”“能”が持つどの意味に対応しているのか、細かく分析した。具体的に、以下の結果が得られた。

成都方言における“得”は動詞、助動詞、構造助詞、語気詞として用いることができる。“得”が動詞として用いられる際、①普通話（共通語）の動詞としての“得”と同じく「得る、もらう」を表す；②普通話（共通語）にはない意味･用法として、「頼る、～のおかげ」を表す。

“得”が助動詞の場合、動詞前の助動詞と動詞後ろの後助動詞として使える。動詞前の“得”について、①客観的条件などを根拠に、出来事の可能性を示す。これは普通話（共通語）の“能”と対応する；

②話者の推測に基づく出来事の可能性を表す、これは普通話（共通語）の“会”の意味と似ている；③話者の主観的な意志･願望を表し、普通話（共通語）の“愿意”の意味に近い。後助動詞の“得”について、①客観的条件のもとの可能性を表し、普通話（共通語）の“能”“可以”と同じ意味である；②許可を表し、普通話（共通語）の“可以”に相当する；③行為主体の能力がある事態を達成できるかどうかを表し、普通話（共通語）の“能”の意味に近い；④道理の上からの必要性あるいは実際における必要性を表し、普通話（共通語）の助動詞“应该”と同じ意味で用いられる。

“得”が構造助詞の場合、動詞と結果補語または方向補語の間に挿入し、「動詞＋得＋結果補語」または「動詞＋得＋方向補語」の形で、普通話（共通語）と同じように可能補語で用いる。動詞と形容詞の間に“得”を置き、後の形容詞で状態や性質などを説明し、普通話（共通語）の様態補語の使い方である。

“得”が語気詞の場合、①文末に用いて、陳述語気を表しているが、省略しても文の意味は変わらな

表　成都方言における“得”の統語的機能

| 品詞 | 用いる位置 | 意味 | 普通話（共通語）との対照 |
|---|---|---|---|
| 動詞 | | 得る、もらう | 同じ |
| | | 頼る、～おかげ | ない |
| 助動詞 | 動詞前 | 客観的条件などを根拠に、出来事の可能性を示す | 「客観的な条件のもとで～できる」を表す“能” |
| | | 話者の推測に基づく出来事の可能性を表す | 可能性を表す“会” |
| | | 話者の主観的な意志・願望を表す | 自らの意志・願望を表す“愿意” |
| | 動詞後 | 客観的条件のもとの可能性を表す | 「客観的な条件のもとで～できる」を表す“能”“可以” |
| | | 許可を表す | 許可されて～できる」を表す“可以” |
| | | 行為主体の能力がある事態を達成できるかどうかを表す | 「能力があって～できる」を表す“能” |
| | | 道理の上からの必要性あるいは実際における必要性を表す | “应该” |
| 構造助詞 | 動詞と結果補語または方向補語の間 | 可能補語を作る | 同じ |
| | 動詞と形容詞の間 | 様態補語を作る | 同じ |
| 語気詞 | 文末 | 陳述語気を表す、省略しても文の意味は変わらない | ない |
| | 動詞後 | 副詞の“简直”などと共に強調の語気を表す | ない |
| | 文末 | “在”などと共に持続を表す | ない |

い；②動詞の後ろについて、副詞の“ 简直 ”と共に強調の語気を表す；③文末に置き、“ 在 ”などと共に持続を表す。ただし、この場合の“ 得 ”の声調は違う。[te$^{21}$] ではなく、[te$^{213}$] である。声調の相違は統語的機能に何らかの関係を示す可能性があるが、本研究では特に論じず、今後の機会に譲ることとする。

以上の内容をまとめると、以下の表になる。

以上のように、今回は成都方言における“ 得 ”の統語的機能について考察・分析して、その結果をまとめたが、各品詞で用いる例文は必ずしも十分とは言えない。今後は文学作品などの書きことばと成都の人々は日常生活で実際に使用している語句をさらに調査する必要がある。それは今後の課題としたい。

## 注

1　《四川方言词典》に収録された語句は、四川出身の現代作家の文学作品や四川の人々の口語から現在日常生活でよく使われているものである。その中に、成都方言は大部分を占めているが、その他の四川地域の方言も含まれている。

2　《四川方言词典》の品詞分類は、名詞、動詞、形容詞、数詞、量詞、代詞、副詞、介詞、連詞、助詞、感嘆詞、語気詞、象声詞、綴りしかないため、助動詞も動詞に分類されたと推測できる。

3　陳述語気：ある事実または見解を述べる際使う。肯定、否定、疑問、感嘆などの形式がある。

4　構造助詞：連体修飾語や連用修飾語などの文法関係を示す助詞、“的”“地”“得”の３つがある。

5　様態補語：動詞や形容詞のあとに構造助詞“得”を伴い、そのあとで、動作・行為・状態がどうであるかを具体的に描写・説明する補語である。

6　結果補語：一部の単音節動詞や形容詞の直後につき、動作行為がもたらす結果を表す補語である。

7　方向補語：動詞の後ろについて、動詞の表す動作によって人や物が移動する方向を表す補語である。

8　《现代汉语》(1997)などでは、中国語の助動詞は補足的な動詞だと述べている。動詞や形容詞の前に使い、可能、意志・願望、必要性などの意味を表す。

## 参考文献

（1）日本語

朱德熙（1982）『文法講義　朱德熙教授の中国語文法要説』杉村博文、木村英樹訳　白帝社

熊進（2005）「四川方言における“得”―“得V”と“V得”を中心に―」『中國文學研究』31巻，275-288

（2）中国語

吕叔湘（1980）《现代汉语八百词》商务印书馆

黄伯荣、廖序东東（1991）《现代汉语》高等教育出版社

王文虎、张一舟、周家筠（2014）《四川方言词典》四川人民出版社

張一舟、張清源、鄧英樹（2001）《成都方言語法研究》巴蜀書社

周家筠（1983）“成都话的“得””《四川大学学报（哲学社会科学版）》第1期，68-74